

2025年度東京海洋大学海洋生命科学部食品生産科学科 小論文【解答例】

問題 1

問 1. 次の (1) ~ (5) について、本文の内容に即して日本語で答えなさい。

(1) アメリカの高等教育の中心には、当初、どのような実学の学問分野がありましたか。具体的に 2 つ挙げなさい。(10 点)

Ans. 工学、農学、経営（管理）学、応用科学のうちから 2 つ [各 5 点]

(2) アメリカの高等教育における一般教育カリキュラムは、どのような必要性からつくられましたか。(15 点)

Ans. すべての学識ある人々の標準となる基礎知識を提供する必要性

(3) ヨーロッパの大学生は、キリスト教の規律を通して、何を得ようとしていましたか。(10 点)

Ans. 自然界や社会一般についての基礎的理解

(4) 古代ギリシアにおいて、リベラルアーツは、どのような人が何をするために不可欠だと考えられていましたか。(15 点)

Ans. 自由民が市民生活に積極的に参加するため（に不可欠なものと考えられていた）

(5) 明治維新の頃、日本の教育で、真理の追及や啓蒙よりも優先されたことは何ですか。(10 点)

Ans. 実用的な技術や知識

問 2. 本文では、欧米や日本の大学のカリキュラムに一般教養科目がおかれるようになった経緯が説明されています。あなたは、今の大学において、一般教養科目を履修することにどのような意味があると思いますか。本文の内容を踏まえたうえで、あなたの意見を 260 字から 300 字の日本語で書きなさい。(40 点)

参考：「問 2.」採点のポイント。以下の 5 点を採点上の主なポイントとする。

- 1) 本文の内容を踏まえているか。
- 2) 冒頭に主題・論旨をはっきり示しているか。
- 3) 論理的な発展をしている文章か。
- 4) 具体性に欠けていないか。
- 5) 結論を出しているか。

問題2

問1 水産資源の枯渇を招いている原因を、本文中の言葉を用いて200字以内で述べない。

(配点:30点)

世界人口の増加による経済活動の拡大に伴い、魚や貝、エビなどの水産物の需要と消費は過去50年間で5倍に増加し、今後もその傾向は続くとみられている。世界で漁業資源とされる魚種のうち、資源量にまだ余裕があるとされるのは全体の1割以下であり、6割は漁獲可能な上限のレベルまで獲られ、残り3割は過剰漁獲の状態にあることから、多くの水産物の「乱獲」や「獲りすぎ」の深刻化が水産資源が枯渇する原因の一つである。(197字)

問2 下線にある「実際にはこれだけで水産物のサステナビリティを確立するのは困難と言わねばならない。」と著者が考える理由について、あなたの考えを250字以内で述べなさい。

(配点:40点)

水産資源として利用されるあらゆる魚種、海域のすべてについて、国が指針を決めることは現状極めて困難であること、何より、サステナビリティを証明する上で欠かせないトレーサビリティを実現するためには、実際の生産現場の管理や監督を徹底する必要があるが、これらはむしろ、国の政策ではなく、その資源を扱うビジネスにおいて確立が求められる。これは水産資源に限らない、自然資源を扱う全ての業界に通じた課題といえるが、現状のルールでは、上記の事柄をすべて網羅することは困難である。(230字)

問3 過剰な水産資源の利用を抑え、海の恵みを将来的に変わらず享受し続けるにはどのような取り組みが必要と著者は考えているのか、本文中の言葉を用いて300字以内で述べなさい。

(配点:30点)

漁業者がサステナブルな国際認証を取得するだけでなく、企業側が製造・加工・流通の段階で、認証の水産物と非認証の水産物が混ざらないよう適切に管理することを目的とした「MSC CoC認証」を取得し、こうした認証取得事業者を通じて販売される水産物に付けられる、MSC「海のエコラベル」を通して、店頭でそれを手に取った消費者にも、その魚がサステナブルなものであることが一目で分かるようにする。つまり、漁業の現場から消費者の手元までを審査の対象としてカバーすることで、サプライチェーン全体の管理を可能にし、漁業のサステナビリティを確立する。企業には、こうした方針を企業目標や公約として掲げ、リスク管理をすることが求められる。(299字)